

## What we can do now 今こそできる私たちの取り組み



### INDEX

#### ■ 附属病院

新センター長に聞く	岡田 英孝	01
新主任教授に聞く	長沼 誠	02
新主任教授に聞く	薬師寺 祐介	03
新主任教授に聞く	谷崎 英昭	04
PET-CT 短時間で高画質の画像を提供		05
ウルトラハルス 炭酸ガスレーザー 瘻痕治療のさらなる充実へ		06
腎臓泌尿器外科に最新式高機能レーザー 2機種を導入		07

#### ■ 総合医療センター

TOPICS		08
新病院教授に聞く	山道 啓吾	09
骨盤機能センター	吉岡 和彦	10
新センター長に聞く	北出 浩章	11
スキンがんセンター	鈴木 健司	12

#### ■ 香里病院

病院長	岡崎 和一	13
乳腺外科・形成外科	田中 義人 樺山 友美子	14

#### ■ くずは病院

新病院長に聞く	高山 康夫	15
整形外科	山口 拓嗣 澤田 誠司 勝本 桂史 高山 太邦 黒川 勇人	16

#### ■ 天満橋総合クリニック

人間ドック健診について		18
-------------	--	----

#### ■ 関西医科大学附属病院

TEL.072-804-0101 (代)  
http://www.kmu.ac.jp/hirakata/  
〒573-1191 大阪府枚方市新町2-3-1  
地域医療連携部 病診連携課(地域医療センター事務局)  
TEL.072-804-2742 FAX.072-804-2861

#### ■ 関西医科大学総合医療センター

TEL.06-6992-1001 (代)  
http://www.kmu.ac.jp/takii/  
〒570-8507 大阪府守口市文園町10-15  
地域医療連携部 病診連携課  
TEL.06-6993-9444 FAX.06-6993-9488

#### ■ 関西医科大学香里病院

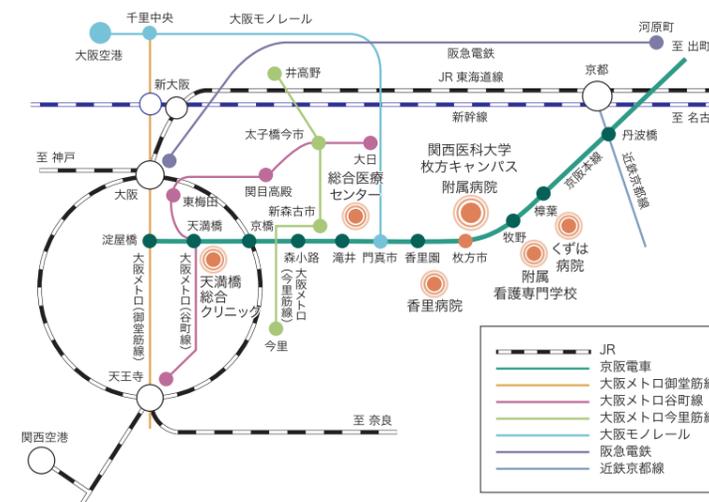
TEL.072-832-5321 (代)  
http://www.kmu.ac.jp/kori/  
〒572-8551 大阪府寝屋川市香里本通町8-45  
地域医療連携部 病診連携係  
TEL.072-832-9977 FAX.072-832-9988

#### ■ 関西医科大学くずは病院

TEL.072-809-0005 (代)  
http://www.kuzuhahp.com  
〒573-1121 大阪府枚方市楠葉花園町4-1  
地域医療連携課  
TEL.072-809-0013 FAX.072-809-0022

#### ■ 関西医科大学天満橋総合クリニック

TEL.06-6943-2260 (代)  
http://www.kmu.ac.jp/temmabashi/  
〒540-0008 大阪市中央区大手前1-7-31 (OMMビル 3階)  
TEL.06-6943-2260 FAX.06-6943-9827



# 北河内エリアにおける 地域医療のさらなる 充実に向け、連携強化へ 尽力します

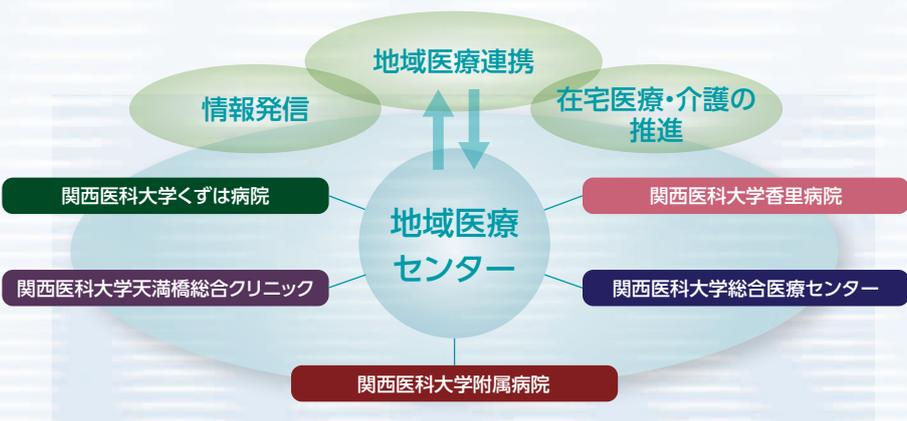


当センターの役割は、法人が地域医療連携業務を推進するための企画、立案および統合調整です。関西医科大学系列の5つの附属病院を繋ぐこと、そして各附属病院が地域の病院・クリニックの先生方と構築してきた繋がりを発展させること、この2点を主軸に活動しております。私はこの春、前任の谷川昇教授から引き継ぎ当職に着任いたしました。セン

ターのスタッフは事務員やソーシャルワーカーなど多職種で構成し、各附属病院が地域からどのような医療のあり方を求められているか、それぞれの立場から繊細にくみ取り、各施設の地域連携担当と共に具体策を展開しています。本来であれば着任しですぐに地域の先生方へご挨拶に伺いたかったところ、世の中の状況からなかなか叶わず歯がゆく感じております。

これからの日本の医療で各医療機関がそれぞれの機能を最大限に発揮するには、急性期や回復期、在宅など専門分野における診療特化と、それらを活かす連携体制が重要と言えます。北河内医療二次医療圏では近年、大規模なメディカルネットワークが形成されつつあります。そんな中、関西医科大学では各附属病院に訪問看護ステーションを設けるなど在宅療養への移行を促進し、高齢者をはじめ介護・介助を必要とする方々を大学病院がサポートするシステムを築いてまいりました。今後、北河内エリアの医療充実度をさらに向上させてゆくには、様々な分野で強みを持つ診療所やクリニックの先生方と、紹介・逆紹介の関係を留まらず、お互いの特色を理解した密な連携が不可欠だと考えております。関西医科大学系列では当センターが主体となって地域の先生方との情報共有に務め、地域で診るという医療体制に貢献

してまいります。  
また従来開催していた講演会や勉強会、患者さん向けの市民講座といったイベントについては、現状を鑑み、オンラインなど新しい形での開催を模索しております。今できうる限りの方法で各附属病院それぞれの特色を広く発信しながら、患者さんを命を繋ぐ環境づくりに尽力することが我々の使命と考えております。



Speciality service

## 関西医科大学附属病院 新センター長に聞く

地域医療センター  
センター長

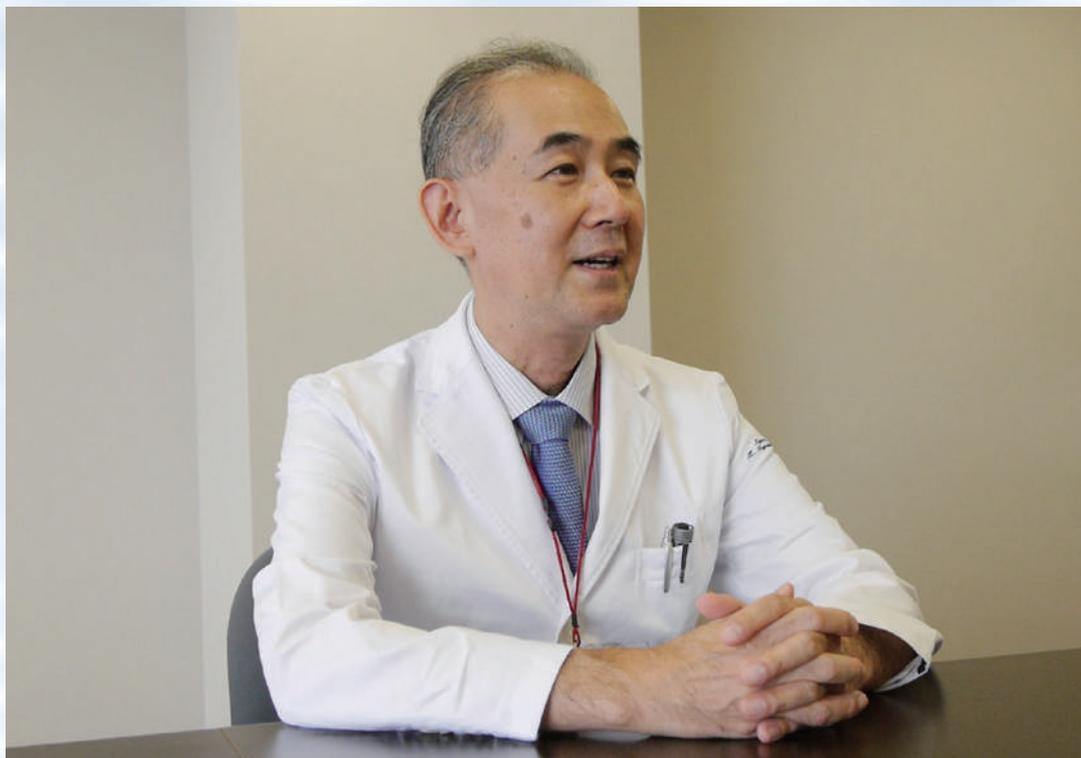
**岡田 英孝**

HIDETAKA OKADA



### profile

- 1993年3月 関西医科大学 卒業
- 1993年6月 関西医科大学 産科学婦人科学講座 入局
- 2001年8月 IVF大阪クリニック 医長
- 2003年4月 プリンズヘンリー医学研究所(オーストラリア) 留学
- 2005年3月 関西医科大学 講師
- 2013年7月 関西医科大学 准教授
- 2015年4月 関西医科大学主任教授(産科学婦人科学)、生殖医療センター長
- 2016年5月 臨床遺伝センター長
- 2020年4月 地域医療センター長、総合周産期母子医療センター長



# 最先端治療法や低侵襲を積極的に導入。 高い専門性と幅広い知見を持つ ジェネラリストを目指して

「医学部生だった頃、より幅広い疾患の患者さんを救いたい思いから内科を自分の道と決めました。中でも食道・胃・大腸・肝臓など診る対象が広い消化器内科に魅力を感じ、ジェネラリストを目指し邁進してまいりました。また難病患者の新薬開発や臨床研究も行なってきました。2020年4月に現職に着任しましたが、前職まで関東におりましたので、北河内エリアの医療の現状はまだまだ勉強中です。地域のクリニックへご挨拶に回る際、先生方から地域医療の貴重なお話を伺えることを大変ありがたく思っております。

臨床では大腸疾患、特に最近増加傾向にある潰瘍性大腸炎・クローン病患者さんを数多く診療しており、内視鏡検査も得意としています。潰瘍性大腸炎は新たな治療法の登場で治る病気となりつつありますが、選択肢が増えたことでの治療法が適切か、難しい判断を要する側面も出ております。10月より当院の難病センターに「潰瘍性大腸炎・クローン病部門」を設立し、集約的に患者さんを診察していく予定です。当院は最先

端の治療法による多くの実績がありますので、ぜひご相談いただけますと幸いです。内視鏡についても、昔前では難しかった消化器がんの早期発見が容易になっています。特に当科では外科と連携し、低侵襲な内視鏡治療や化学療法を盛んに行っています。

近年の医学分野は専門性の細分化が進み、世間的には大学病院での傾向が強いように感じます。ですが私は「専門領域を中心に多様な治療法を有する大学病院であっても、専門外のことも耳を傾ける医師でありたい」と思います。医師それぞれが専門を超えて広く対応できる、患者さんに安心していただける消化器内科であるよう尽力してまいります。また、地域医療連携とは双方の関係性があってこそです。地域の先生方に診ていただく方が良い疾患や様態を持つ患者さんについては、逆紹介もお願ひしていきたいです。将来的には診療だけでなく、住民の皆さんの健康を予防から支えるべく、早期発見・早期診断を啓蒙できるような活動を展開できればと考えております。

## New Professor

### 関西医科大学附属病院 新主任教授に聞く

関西医科大学附属病院  
内科学第三講座(消化器肝臓内科)



MAKOTO NAGANUMA

長沼 誠

## profile

- 1992年3月 慶應義塾大学医学部 卒業
- 1992年5月 慶應義塾大学医学部 研修医(内科)
- 1994年5月 済生会宇都宮病院 内科 出向
- 1996年6月 慶應義塾大学医学部 消化器内科 助手
- 1997年6月 亀田総合病院 消化器内科 内視鏡研修
- 2003年1月 バージニア大学医学部 消化器内科 博士研究員
- 2009年6月 東京医科歯科大学 消化管先端治療学講座 講師
- 2012年4月 慶應義塾大学医学部 内視鏡センター 専任講師
- 2017年6月 慶應義塾大学医学部 消化器内科 准教授
- 2020年4月 関西医科大学医学部 内科学第三講座 主任教授

# 神経救急・認知症・神経難病を柱に 脳疾患の急性期医療を支える 地域の中核的存在へ



佐賀県の開業医の家に生まれた私は、医業を身近に感じながら育ちました。大学も医局も佐賀大学ですが、2002年から国内留学として3年間、吹田市にある国立循環器病研究センター脳血管内科のレジデントとして在阪していた経験があります。今回の着任で再び大阪の地を踏

むことができ、嬉しく思っております。

近年、高齢者数の増加とともに脳卒中や認知症の患者さんは増えてつづいてあります。これらの疾患においてはここ10年程で新薬や治療法が増え、専門的・高度な治療の選択肢の幅が広がりました。それに伴い、大学病院

が求められる役割が大きくなったと感じます。私は研究において脳卒中と認知症に共通する脳微細血管障害を専門に持ち、臨床では神経内科領域全般を網羅的に行ってまいりました。当院へ着任したのは、関西圏の大学病院に脳卒中の急性期医療を専門とする医師が少なく、お役立ちできることがあるのではと使命感を覚えたからです。今後は神経救急・認知症・神経難病の3つを柱に、脳神経外科や精神神経科と横断的に連携しながら、地域のニーズに沿った神経内科医療を展開してゆきたいと考えております。そこでまず6月より、従来精神科外来であった「物忘れ外

## 脳卒中を強く疑う症状です

### 顔・腕・言葉

1つでも急に症状が出たら救急車を

#### 顔のゆがみ

片側の顔が歪む、口から水が漏れる

#### 上肢挙上の異常

片側の腕に力が入らず「前にならえ」のポーズができない

#### 構音障害

正しい発音ができない、言い間違える、黙り込む

この3つのうち、1つでも症状が出たら  
**脳卒中の可能性は72%!**

来月に脳神経内科も加わり、より充実した体制を整えました。将来的には国立循環器病研究センターと連携し、大阪、ひいては関西圏の脳卒中治療に革新的な展開をもたらすことができると考えております。  
ご存じのように、脳卒中は早期診断・早期治療がその後の経過を大きく左右します。早期治療が出てからの痺れや麻痺など症状が出てから4・5時間以内です。かかりつけ医の先生方におかれましては、こういった症状が見受けられる患者さんがいればすぐにご連絡いただけますと幸いです。

## profile

- 1996年3月 佐賀医科大学(現・佐賀大学医学部) 卒業
- 2000年6月 佐賀医科大学附属病院 神経内科 医員
- 2002年5月 国立循環器病センター 脳血管内科部門 レジデント
- 2008年9月 佐賀大学大学院 医学系研究科 博士過程修了、学位取得
- 2008年10月 佐賀大学医学部 神経内科 助教
- 2012年12月 ロンドン大学 神経研究所 研究員
- 2014年8月 佐賀大学医学部 神経内科 講師
- 2015年9月 佐賀大学医学部附属病院 脳血管センター 副センター長
- 2020年4月 関西医科大学 神経内科学講座  
主任教授、難病センター長、脳卒中副センター長



YUSUKE YAKUSHIJI

## New Professor

# 関西医科大学附属病院 新主任教授に聞く

関西医科大学附属病院  
脳神経内科

## 薬師寺 祐介

# 患者さん一人ひとりへ、 地域と共により良い医療を提供すべく 「顔が見える皮膚科」を目指して



近年、皮膚アレルギー疾患や悪性黒色腫をはじめとする皮膚疾患の治療法は目覚ましく進化し、10年前には治りきらなかったような重症度でも症状をコントロールできるようなようになってきました。当院では最先端の治療法を積極的に取り入れつつ、大学病院ならではの高度な技術、そして各診療領域との連携で包括的なケアにあたっています。当科は女性医師が多く若いパワーにも溢れ、様々な立場の患者さんそれぞれに寄り添った診療ができていると自負して

おります。  
さて、私は幼い頃よりアトピー性皮膚炎に罹患しており、症状に苦しんできた経験が現在の道を選んできたこととなりました。皮膚アレルギーを主な研究対象とし、臨床では皮膚腫瘍、皮膚外科も得意としています。過去の私と同じように皮膚疾患に苦しむ患者さんを救うには、地域と共に医療の良い循環をつくるのが欠かせません。当科が「顔が見える皮膚科」であるべく、この春に着任して以来、クリニックの先生方の下へ地域連



携課のスタッフとご挨拶に伺っております。まだお目にかかれていない先生方にも近く直接ご挨拶させていただけますと幸いです。そして地域とのより良い人的ネットワークを築いてゆべく、今後は後進の育成にもさらに力を入れて取り組み、ご紹介いただいた患者さんについては経過のご報告を大切にまいります。  
また皮膚科領域では感染症や帯状疱疹など、緊急入院が必要になる患者さんがいます。当科は十分なマンパワーで積極的な受け入れを行っておりますので、急を要する患者さんがいれば、時間帯にかかわらずいつでもご一報ください。地域を支える病院の1つとして、双方のより良い関係を築いていきたいと考えております。よろしくお願いたします。

## profile

- 2002年3月 島根医科大学(現・島根大学医学部) 卒業
- 2002年5月 京都大学 皮膚科 医員
- 2003年6月 島根県立中央病院 皮膚科 医員
- 2005年4月 京都大学 皮膚科 医員
- 2006年4月 京都大学大学院 医学研究科 博士課程修了・学位取得
- 2010年4月 京都大学 皮膚科 助教
- 2012年4月 長浜赤十字病院 皮膚科部長
- 2013年4月 京都大学 皮膚科 助教
- 2013年9月 コロラド大学 皮膚科 Invited Faculty
- 2013年11月 京都大学 皮膚科 助教
- 2015年4月 大阪医科大学 皮膚科学教室 講師

## New Professor

### 関西医科大学附属病院 新主任教授に聞く

関西医科大学附属病院  
皮膚科



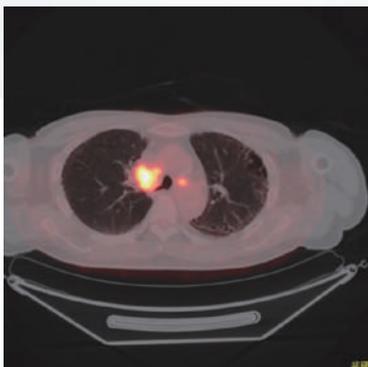
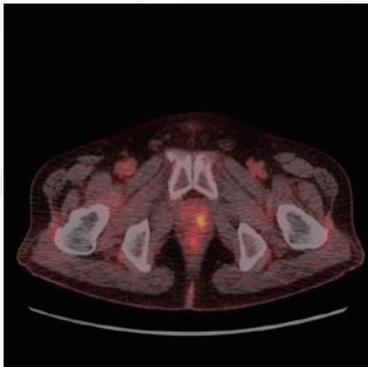
HIDEAKI TANIZAKI

谷崎 英昭



## PET-CT

# 短時間で高画質の 画像を提供



がん診療におけるPET-CTの役割は大きく、検査の必要な患者さんもますます増加しています。そこで、関西医科大学附属病院では2020年3月に最新のPET-CT装置を導入しました。この装置の特徴は超高感度で幅の広い検出器を搭載し、次世代の画像再構成法を用い、さらに最新の呼吸同期装置による呼吸に合わせたPETの撮像により、体格などの条件に左右されない高画質の画像が提供できます。CT装置にも被ばく線量を低く抑える技術が搭載されています。

このような性能により微小病変の描出能力や、隣接する病変の識別能力が向上し、かつ正確なSUV値を提供できるため、継続的な治療効果判定へのPET利用が可能となります。患者さんには検査時間の短縮や使用する放射性同位元素の投与量の減少が可能で、被ばくの低減がはかられています。

## FDG-PETの 保険適応

### 1 てんかん

難治性部分てんかんで外科切除が必要とされる患者に使用する。

### 2 心疾患

血性心疾患による心不全患者における心筋組織のバイアビリティ診断(他の検査で判断のつかない場合に限る)、心サルコイドーシスの診断(心臓以外で類上皮細胞肉芽腫が陽性でサルコイドーシスと診断され、かつ心臓病変を疑う心電図又は心エコー所見を認める場合に限る)、又は心サルコイドーシスにおける炎症部位の診断が必要とされる患者に使用する。

### 3 悪性腫瘍

(早期胃癌を除き、悪性リンパ腫を含む)

他の検査又は画像診断により病期診断又は転移若しくは再発の診断が確定できない患者に使用する。

### 4 血管炎

高安静脈炎等の大型血管炎において、他の検査で病変の局在又は活動性の判断のつかない患者に使用する。



# ウルトラパルス 炭酸ガスレーザー

## 瘢痕治療の さらなる充実へ

附属病院形成外科は外傷、熱傷、外科手術後などに対する瘢痕治療の充実のため、2020年3月にウルトラパルス炭酸ガスレーザーを導入しました。

最大60W の高出力装置であり、これまでの機器と比べて短時間での治療が可能になります。治療時間の短縮により、病変周囲への熱損傷の蓄積が少ない事が最大のメリットです。

高いピークパワーを持つウルトラパルス方式のレーザー照射は従来のスーパーパルス方式よりも均一的な照射が出来ます。付属のフラクショナル照射用ハンドピースを用いれば、深部までの均一な蒸散が可能となり、これまで治療出来なかった瘢痕治療にも対応します。

### ウルトラパルス炭酸ガスレーザーによるキズアト治療

形成外科では、これまで多くの外傷後瘢痕、熱傷後瘢痕、手術後瘢痕など、いわゆるキズアトの治療を行ってきました。大きさや形状など、瘢痕の

形態は多様で、個々の症例に合わせて、適切な治療を行っています。瘢痕拘縮の解除などは、形成外科的手術によって劇的に改善します。しかし、「正常皮膚との境界が目立つ」、「ざらざらとしていて凹凸がある」など特に正常皮膚との質感の違いの改善に対しては、治療の選択肢がほとんどありませんでした。しかし、そのような瘢痕にこそ、ウルトラパルス炭酸ガスレーザーが有効であることがわかりました。もちろん、レーザー治療を重ねても完全に受傷前の状態（正常皮膚）に戻すことはありませんが、さらに一歩近づけることができる可能性があります。

「これ以上は、どうしようもない」と言われた「などキズアトに関する悩みを抱えておられた患者さんから、問い合わせをいただくようになりました。貴施設におかれましても、瘢痕治療で難渋する症例がございましたら是非当科へご紹介ください。症状に応じて、最善の治療方法を提案し、患者さんと一緒に治療を進めさせていただきます。なお、本治療は自費診療となります。」

「これ以上は、どうしようもない」と言わ





## 地域の基幹病院としてもっと頼られる・愛される存在へ

杉浦 哲朗 病院長 (2018年4月に就任)



## 関西医科大学総合医療センターは 専門性と地域性の両立で 地域医療支援病院に承認されました

関西医科大学総合医療センターは、2020年3月に大阪府から地域医療支援病院の承認を、次いで4月に厚生労働省よりDPC特定病院群（II群）の認定を受けました。

地域医療支援病院とは、患者さんに良質な医療を提供することを目的とした「地域完結型医療」を実現するため、救急医療及び、地域の診療所・クリニックに対する高度な医療の提供、医療機器等の共同利用の推進など、地域医療を支援する病院として都道府県知事が承認した病院です。またDPC特定病院群とは、大学病院本院に準じた高密度な医療を提供できる施設として評価基準を満たす病院が認定されます。

当センターでは、これまで地域の先生方に向けてはCTやMRIなどの大型医療機器を共同利用することや、医療従事者向けの勉強会を開催すること、患者さん向けには健康に関する講演会などを実施してまいりました。数年にわたって従来以上に地域連携に取り組んできた結果、現在は紹介率・逆紹介率

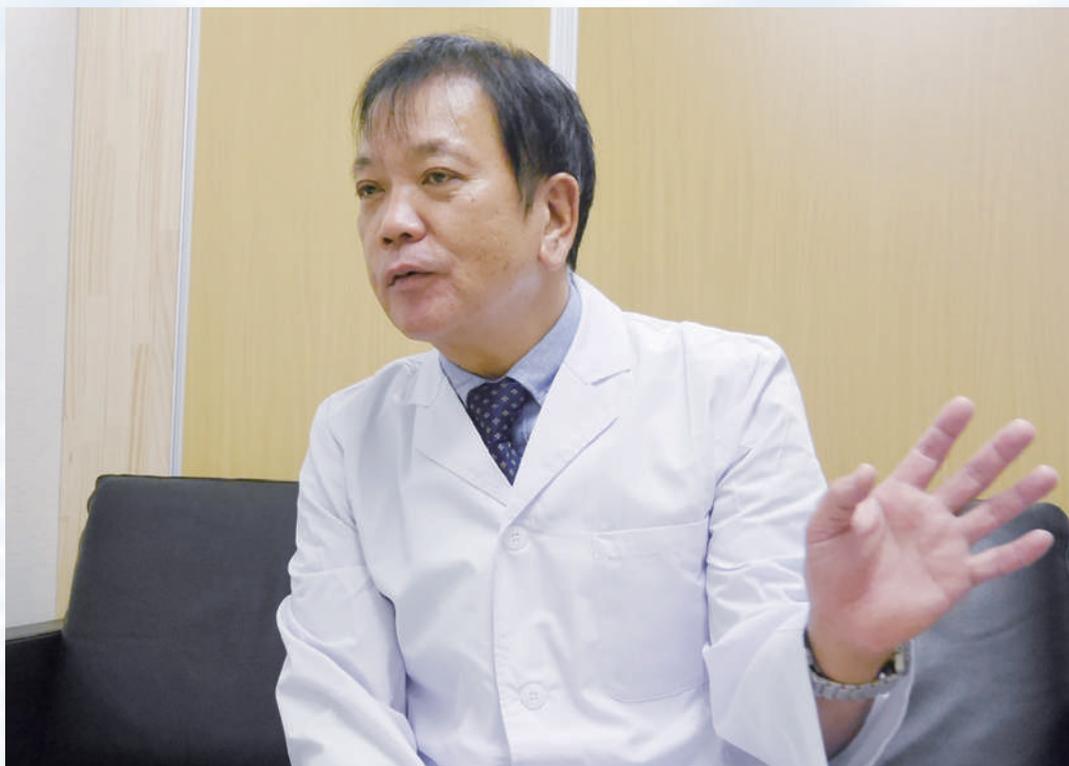
とも約70%と高い数値を実現しています。一方、各診療科を越えたチーム医療の推進、リハビリテーションセンターとデイケアセンターの併設など急性期に加えて退院後の生活期まで一貫したリハビリを実施しており、地域完結型医療を推進する医療機関として期待される体制の充実も進めております。

また地域への貢献という観点のトピックとして、2018年に旧本館跡地にオープンしたホスピタルガーデンは、大規模な災害が発生した場合に地域住民の方々の一時避難所として活用できるよう守口市と協定を締結しております。

今後も紹介患者さんの積極的な受入と逆紹介を促進すると同時に、救急・災害医療のさらなる対応力向上に尽力してまいります。当センターのモットーである「大切な人を受診させたい病院へ」をより多くの方に実感していただけるよう、スタッフ一同努力してゆく所存ですので、改めてよろしくお願いいたします。

2020年4月に外科部長に就任いたしました。大学への復帰は11年ぶりです。前職では地域の基幹病院で副院長を務めながら、地域連携やがん拠点病院としての整備に尽力しておりました。一方で臨床では、消化器外科をはじめ、一般外科や呼吸器外科など幅広く外科疾患の治療に携わってまいりました。当センターも地域の基幹病院ですので、これまでの経験を糧に地域と密に連携した医療を強く進めていきたい、また新たな手術手技の積極的な導入、がん薬物療法の臨床治験の実施など大学病院として最先端の医療の提供を実現していきたいと思っています。

私は消化器外科の中でも特に上部消化管外科を専門にしており、今後当センターから地域へ貢献できることの一つに、これまで開発を行ってきた単孔式内視鏡手術(胃内手術、LECS/腹腔鏡・内視鏡合同手術、噴門形成術)の領域があると考えております。単孔式内視鏡手術は、臍(へそ)の部分を開腹するだけで開腹手術と同等の手術を行うことができる新しい低侵襲手術です。従来の腹腔鏡手術に比べて術後創がより小さく、少なく済むため、術後の傷の治りが早く、整容性に優れるので患者さんの精神的負担も軽くなります。現在は胆石症で標準術式として普及していますが、私は食道裂孔ヘルニアや胃腫瘍など、まだ国内で実績の少



ない消化管の疾患に対する同手術を行ってきており、この領域のパイオニア的存在であると自負しています。地域医療を支える医師の方々は、医師会などを通じて交流や情報交換の機会を持ち、これまで以上の繋がりを築いていきたいと思っておりますので、よろしくお願いたします。



単孔式内視鏡手術の様子と術後創の外観

## 地域と連携を密にした 医療体制を強化。 消化管における、低侵襲な 「単孔式内視鏡手術」のご提供も

New Professor

関西医科大学総合医療センター  
新病院教授に聞く

外科部長(消化管外科)  
病院教授



KEIGO YAMAMICHI

山道 啓吾

profile

- 1985年3月 関西医科大学医学部 卒業
- 1996年9月 関西医科大学 外科 助手
- 2001年1月 関西医科大学 外科 講師
- 2009年3月 関西医科大学附属枚方病院 外科 病院准教授
- 2009年4月 大阪府済生会泉尾病院 外科部長
- 2010年4月 大阪市大正区医師会 理事
- 2010年8月 単孔式内視鏡手術研究会 世話人
- 2011年4月 関西医科大学 臨床教授(嘱託)
- 2011年4月 大阪府済生会泉尾病院 副院長
- 2020年4月 関西医科大学総合医療センター 外科部長、病院教授

# 各診療科の横断的診療で 生活の質を損なう患者さんを 1人でも多く減らしたい



日本人の場合、便失禁の患者さんは約500万人、尿失禁は約1千万人と推定されています。高齢者だけでなく出産を経験した女性にも多いことが知られており、女性には他にも子宮や膀胱が緩んだ膣を介して体外に出てしまう骨盤臓器脱となってしまうったり、また直腸がんなど大きな手術を受けた方は、術後に排便障害が出たりすることがあります。

当院ではこのような骨盤の中の臓器（直腸、膀胱、子宮）や骨盤の底にある筋肉群、尿道や肛門の括約筋の機能障害で生じる病気を対象に、これまで泌尿器科や婦人科、外科を中心に垣根を越えて対応してまいりました。しかし自分で症状を把握して専門医にかかる人が意外と少ない現状を鑑み、患者さんや地域医療に携わる方々にご理解いただきやすいよう、2020年1月に骨盤機能センターとして改めて出発した次第です。便失禁、尿失禁、骨盤脱、直腸脱、新肛門の再建希望のある方を対象に、各診療科が横断的に診療を行います。

当センターの特徴として、関西圏では当センターのみが実施している「仙骨神経刺激療法」が挙げられます。日本で2014年に保険適応となったこの最新の治療法は、体内に刺激装置を植え込み、排泄に関する神経に持続的な電気刺激を与えます。私自身は大腸肛門外科を専門とし、30年以上前から便失禁や便秘など機能性疾患に携わっており、同手術の日本における治験にも参加し、国内のパイオニアとして邁進してまいりました。保険適応以来、全国での手術件数は約400例。私はそのうち35例の実績を持ち、約75%の患者さんに治療効果を認めています。また当センターでは、骨盤脱から

生じる排尿障害や尿排泄障害へ、婦人科の医師によるメッシュを使用した特殊な手術も行っています。便失禁や尿失禁、骨盤脱などの疾患を持つ患者さんは、手術後の生活の質を大きく損なってしまうことがあります。当センターの願いは、1人でも多くの「生活の質を損なう患者さん」を減らしていくことです。患者さんご自身は、症状の原因がわからず不安に思っておられる場合があります。地域医療を支える医師の方々には、ぜひ症状の程度にかかわらずご紹介いただけますと幸いです。

Speciality service

関西医科大学総合医療センター  
骨盤機能センター

骨盤機能センター  
センター長



KAZUHIKO YOSHIOKA

吉岡 和彦

## profile

- 1977年3月 関西医科大学医学部 卒業
- 1986年4月 英・バーミンガム大学医学部 外科 研究員
- 1988年6月 関西医科大学 外科 助手
- 1995年4月 英・バーミンガム大学医学部 外科 講師
- 2007年4月 関西医科大学附属枚方病院 准教授
- 2013年4月 関西医科大学附属滝井病院(現・総合医療センター) 外科部長
- 2020年1月 関西医科大学総合医療センター 骨盤機能センター長、特命教授

# 胆膵疾患の現状を打破すべくセンター化。 患者さんと確固たる関係を築くことが より良質な医療の提供を実現する

これまで、総合医療センターで肝胆膵疾患を専門に長年取り組んでまいりました。肝胆膵の悪性疾患手術に関しては2018年度に86例、良性腫瘍も含めた手術全体では240例の実績があります。特に肝臓においては多くのエビデンスが集積されたことで、治療体制を確立できた

自負しております。一方で胆道がん（胆管がん、十二指腸乳頭部がん）、膵臓がんは未だ早期発見や根治的な治療が難しい疾患であり、他の消化器がんに比べて手術後の生存率が低い現状があります。当院では元来、診療各科の連携がとりやすい環境が整っており、この胆膵疾患治療の

課題克服に向けて「一人ひとりに総合的な治療を提供する体制」をさらに強固にすべく、2020年3月に胆膵疾患センターを立ち上げました。肝胆膵外科と消化器肝臓内科に加え、病理診断科、放射線科など関連各科で診療方針の決定から外科的処置、化学療法まで一体となり対応します。

私の信念は「常に患者さんファーストの徹底」であり、日々、患者さん全員と顔を合わせて人間関係を築くことが医療の質にも繋がると信じています。治療に最先端の知見を取り入れるのももちろんですが、それが安全でなくては患者さんに寄与する

とは言えません。当センターではその方の生活環境など背景まで理解し、最先端かつ最良の、安全な医療を提供しております。また困難な悪性腫瘍の治療経験を活かし、胆膵良性疾患の診療も安全に行っています。

今後、地域医療を支える先生方に向けては、まず当センターにお知らせいただきやすい窓口環境を整えてまいります。当領域で少しでも気になる患者さんがいらっしゃれば、いつでもご連絡いただけますと幸いです。地域医療へのお返しについても、専門的な処置が必要な場合以外は積極的にお任せしてゆきます。どうぞ当センターにご注目ください。



## profile

- 1988年3月 関西医科大学医学部 卒業
- 1988年5月 関西医科大学附属病院 外科
- 1997年4月 関西医科大学 第1外科 助手
- 1998年6月 京都大学附属病院 移植外科 医員
- 2001年4月 Leuven Catholic University postdoctoral fellow
- 2003年7月 関西医科大学附属香里病院 外科 助手
- 2006年1月 関西医科大学附属滝井病院 外科 助手
- 2008年5月 関西医科大学附属滝井病院 外科 講師
- 2015年12月 関西医科大学附属滝井病院(現 総合医療センター) 肝胆膵外科教授
- 2020年3月 関西医科大学総合医療センター 胆膵疾患センター長  
肝胆膵外科教授 栄養管理部部長 結石副センター長

## New Center

### 胆膵疾患センター 新センター長に聞く

胆膵疾患センター  
センター長



HIROAKI KITADE

北出 浩章

# 診断から切除、再建まで。 包括的なマネジメントで一人ひとりに 最適な皮膚がん治療を

近年、スキンがん（皮膚がん・皮下悪性腫瘍）の発生率が高まっています。長寿化に伴う皮膚の老化によるものだけでなく、紫外線の影響などもあり、もはや現代人にとって身近な病気と言えるでしょう。一方で従来は難治性で知られてきたこれらのがんは、オプジーボ®（免疫治療薬）をはじめ新しい治療薬が普及しつつあり、最小の切除範囲で機能を温存する治療技術も高まっています。治療の選択肢が広がってきた

昨今、難点は治療の高度化で専門性が高まり、単独の診療科で完結できなくなっている点、また他のがんに比べ、切除しただけでは機能的、整容的（見た目に障害を起こすことがあるため、再建手術が必要なケースが多く存在する点）です。そこで2020年3月、患者さんへ「切れ目のない総合的な皮膚がん治療」を提供すべく、皮膚科と形成外科を軸にスキンがん治療センターを立ち上げました。整形外科や

放射線科、病理診断科などさまざまな領域が関わり、これまでステップごとに分かれていた診断、切除手術、再建といった治療を、一人ひとりに寄り添ったチーム体制の治療とするための包括的なマネジメントを行うております。当センターの強みは、高度な機能温存治療技術と再建技術を持つ医師たちが治療を共有すること、連携によって「患者さんが日常に戻る」というゴールへスムーズにアプローチできることです。また当院には先進のPET/CTも備えています。皮膚がん・皮下悪性腫瘍は治療の難しい病気ですが、診察における視認性の高い病気でもあります。早期発見には地域の医師の方々のご活躍が欠かせません。地域との連携を密にし、より迅速に、より多くの患者さんの治療にあたっていきたくと考えていますので、よろしくお願いたします。



短時間で全身のがん検査を可能とするPET/CT

## profile

- 1986年3月 関西医科大学医学部 卒業
- 1986年6月 関西医科大学 第3次救命救急センター 勤務
- 1993年3月 関西医科大学 形成外科 医員
- 1996年2月 日本形成外科学会 専門医 取得
- 1996年5月 関西医科大学 形成外科 助手
- 1996年8月 関西医科大学香里病院 皮膚科 医員
- 2000年1月 今川病院 切断指専門治療に従事、マイクロサージャリー 取得
- 2003年12月 岸和田市民病院 形成再建外科 部長
- 2006年6月 高槻日赤病院 形成外科 部長
- 2008年1月 関西医科大学滝井病院（現・総合医療センター） 准教授

## Speciality service

### 関西医科大学総合医療センター スキンがん治療センター

スキンがん治療センター  
センター長



KENJI SUZUKI

鈴木 健司

地域と共に歩む病院として、  
多様な医療・介護ニーズに応えるべく  
さらなる患者さんファーストを



2020年4月より香里病院の院長を務めています。前職では附属病院に勤務しておりました。着任して感じるのは、当院がクリニックと専門病院の中間的存在だということと、だからこそ果たせる使命があるということです。

約120万の人口を誇る北河内二次医療圏は、全国平均よりも高齢者が多く、市民病院をはじめとする公的病院が極めて少ないエリアとして知られています。そんな中でも当院は地域に根ざした病院として、大学病院では全国的にも珍しい夕診の実施や、選定療養費の廃止など患者さんファーストを徹底してまいりました。また各領域の専門医が集まったチーム制で診療にあたりながら、訪問看護ステーション、デイケアセンターの介護福祉部門も設置し、医療から介護へとシームレスな連携で地域医療への貢献に務めております。

近年、北河内医療圏内ではメディカルネットワークの構築が進みつつあります。関西医科大学の系列病院内では以前から電子カルテで医療情報を共有し、綿密な連携を図ってきました。例えば当院では対応できない専門的治療が必要となる場合でも、より高度な治療法を持つ系列病院へ最善の道筋を提供できます。多様化する医療・介護ニーズに応えてゆくには、こういった医療機関同士の連携を広めていくことは欠かせません。一方で2018年に始まった新専門医制度により、今後ますます地域医療と地域基幹病院との役割分担が顕著化していくと思われれます。我々の役割は診療強化や専門医の充実によってより広い疾患を診るセネラルな体制を整えつつ、地域医療と地域基幹病院の橋渡し役として患者さんファーストをさらに促進していくことだと考えております。そして地域の先生方と共に、寝屋川市周辺エリアをより包括的な医療を提供できる地域にしてゆくことが願いです。

profile

- 1978年3月 京都大学医学部 卒業
- 1986年11月 医学博士(京都大学)
- 1988年4月 ニューヨーク医科大学 客員研究員
- 1989年4月 州立ニュージャージー医科大学 客員研究員
- 1995年5月 高知医科大学 助教授
- 2003年4月 関西医科大学 内科学第三講座 主任教授
- 2003年4月 関西医科大学附属病院 消化器肝臓内科 診療部長
- 2010年4月 関西医科大学附属病院 副病院長
- 2019年6月 関西医科大学附属病院 難病センター長
- 2020年4月 関西医科大学香里病院 病院長



KAZUICHI OKAZAKI

関西医科大学香里病院  
病院長

岡崎 和一

Speciality service

関西医科大学香里病院

# 難治性褥瘡に苦しむ患者さんを1人でも多く救うべく、 短期集中ケアプログラムをスタート



## 褥瘡ケアパックとは

**田中** 難治性褥瘡の治療を行っている患者さんを対象に、この春から「褥瘡ケアパック」の提供を開始しました。4週間（28日）の入院期間で形成外科や皮膚科の医師、看護師など褥瘡ケアに特化したスタッフで専門チームを組み、集中的な治療にあたります。外科的手術も当院で行い、総合病院の強みを生かして患者さんの基礎疾患まで総合的にケアできることが特徴です。退院される患者さんは、地域の先生方や入居（入院）されていた施設にお帰しします。

**樺山** 栄養状態が優れない方には栄養管理からスタートし、入院時から退院まで、患者さんには安心して過ごしていただける環境を整えています。

## 今後の展開について

**樺山** すでに受け入れをスタートしており、6月、7月にはオンラインでの説明会を実施しました。現在は新型コロナウイルスの影響で直接お目にかかる形での実施が難しい状況ですが、地域医療連携部と協力し、引き続きご案内や相談の機会を設けていきたいと思っています。

**田中** 説明会では褥瘡治療のご説明だけでなく、症例のご相談時間も設けています。長年の治療でも治りきらない、ポケットが閉じないなどの患者さんがいらっしゃれば、お気軽にお声がけください。また退院時には経過が良好であるよう治療に努めますが、もし一部残存する場合には退院後も専門的なケアをフォローしますので、訪問看護への移行前のステップとしてもご利用いただけます。

褥瘡が治らないまましていると全身状態への影響やウィルスなどへの感染リスクといった懸念が高まりますし、看護や介護する方にとっても毎日の処置は負担となります。褥瘡ケアパックの提供を通して、1人でも多くの褥瘡に苦しむ患者さんが減ることを願っております。

## Speciality service

### 関西医科大学香里病院 褥瘡ケアパック

乳腺外科・形成外科



YOSHIHITO TANAKA

**田中 義人**



profile

2002年3月 関西医科大学医学部 卒業  
 2004年6月 関西医科大学附属病院 形成外科学講座 医員  
 2005年10月 彦根市立病院 出向  
 2009年4月 岡山大学病院 出向  
 2010年10月 関西医科大学附属病院 形成外科学講座 病院助教  
 2011年4月 関西医科大学附属病院 形成外科学講座 助教  
 2014年9月 関西医科大学附属滝井病院 プレストセンター 副センター長  
 2017年4月 ベルランド総合病院 乳腺センター 医長  
 2019年4月 関西医科大学香里病院 助教  
 2019年12月 関西医科大学香里病院 診療講師

YUMIKO KABAYAMA

**樺山 友美子**



profile

皮膚・排泄ケア認定看護師  
 認知症ケア専門士  
 フットケア指導士  
 特定行為研修 修了  
 【特定行為区分】  
 栄養および水分管理にかかわる薬剤投与関連  
 栄養にかかわるカテーテル管理(中心静脈カテーテル管理)関連  
 創傷管理関連  
 創部ドレーン管理関連

Interview



## 地元の方々の暮らしに 密接した工夫ある医療と 介護で、地域医療と 基幹病院を繋ぐ

私は2010年の香里病院の開院に携わり、それから8年間院長を務めました。地域の先生方との連携強化に努め、お陰さまで厚くご支持いただけるまでに成長しております。当くずは病院の院長着任に際しまして、この経験を生かしつつ心新たに地域医療への貢献に尽力しようと思ひを引き締まる思いです。

さて、地域における当院の役割を考えてみますと、急性期に対応しながら地域医療と基幹病院の間を取り持つ使命が見えてきます。基幹病院では高度先進医療を受けることが

できますが、医療はそれだけでは完結しません。患者さんにより良い状態で地域へ戻っていただくべく、リハビリを中心とする機能回復の面で役立つ病院を目指します。そのために整形外科、リハビリテーション機能を充実させ、6月には病床の再編を行いました。療養病床を廃止し、地域包括ケア病床と回復期リハビリ病床へ転換しています。整形外科は、社会の高齢化に伴い、今や地域医療の中で欠かせない存在です。例えば私の専門である循環器内科領域では、高齢化社会で慢性心不全が増加してきてい

ますが、高度医療で一度は心不全の改善が得られたとしても、その後症状を繰り返すことでご本人の活動性は低下し、転倒などにより整形外科疾患を招くことも少なくありません。また、急性疾患治療後の活動性の低下は、その後の認知機能低下を招くこともあります。

このような現状から、地域に近い病院ほど急性期治療後の整形外科的ケアや回復期のリハビリテーションが充実しているべきだと考え、人員強化を実施しました。当院は訪問看護ステーション、ケアプランセンターお

よびヘルパーステーションを併設しておりますので、リハビリ以外の医療が必要な場合も、可能な限り早く住み慣れた街へご自宅へ帰っていただけるよう務めてまいります。

一方で、当院では8月より4つの附属病院と共通の電子カルテを導入し、よりスムーズな連携で適切な治療・ケアのご提案が可能になりました。地域の方々が基幹病院を受診する前の受け皿としても機能を果たしていきたいと思ひます。

地域医療を担う先生方とは交流の機会を積極的に設けたいところでありますが、残念ながら新型コロナウィルス感染症拡大でままならない状況が続いております。今後、オンラインでの勉強会や症例紹介など新しい発信を企画してまいります。開業医の先生には様々な領域のスペシャリストがいらっしゃるので、そういった折にはぜひご意見や情報もお伺いしたく、よろしくお願ひいたします。



profile

- 1982年3月 関西医科大学 卒業
- 1982年5月 関西医科大学附属病院 研修医
- 1984年6月 田附興風会北野病院 内科 医員
- 1985年6月 関西医科大学附属病院 研究医員
- 1990年1月 関西医科大学 内科学第二講座 助手
- 1992年11月 カリフォルニア大学サンディエゴ校 Cardiology, Research Fellow
- 1999年5月 関西医科大学 内科学第二講座 講師
- 2001年6月 関西医科大学 内科学第二講座 助教授
- 2010年6月 関西医科大学香里病院 病院長
- 2018年4月 関西医科大学 医学部 理事長特命教授



YASUO TAKAYAMA

高山 康夫

Speciality service

### 関西医科大学くずは病院 新病院長に聞く

関西医科大学くずは病院  
病院長



左から:勝本 桂史 医師、山口 拓嗣 医師、澤田 誠司 医師、高山 太邦 医師、黒川 勇人 医師

「整形外科に強いくずは病院」を目指し、  
 様々な症状の患者さんに  
 リハビリまでのきめ細やかなケアを

HIROTSUGU YAMAGUCHI

**山口 拓嗣**

profile

- 1987年 産業医科大学 卒業
- 1991年 信原病院
- 1999年 産業医科大学病院
- 2009年 南川整形外科病院(福岡県) 医長
- 2019年 関西医科大学くずは病院 整形外科

SEIJI SAWADA

**澤田 誠司**

profile

- 1991年 関西医科大学 卒業
- 2020年 関西医科大学くずは病院 整形外科

KEISHI KATSUMOTO

**勝本 桂史**

profile

- 2008年 関西医科大学 卒業
- 2010年 関西医科大学 整形外科教室 入局
- 2011年 関西医科大学総合医療センター
- 2011年 明治橋病院
- 2014年 独立行政法人 地域医療機能推進機構滋賀病院
- 2016年 済生会 泉尾病院
- 2020年 関西医科大学くずは病院 整形外科

HIROKUNI TAKAYAMA

**高山 太邦**

profile

- 2013年 金沢医科大学 卒業
- 2015年 関西医科大学 整形外科教室 入局
- 2015年 関西医科大学附属病院
- 2016年 済生会 泉尾病院
- 2018年 関西医科大学香里病院
- 2020年 関西医科大学くずは病院 整形外科

HAYATO KUROKAWA

**黒川 勇人**

profile

- 2014年 金沢医科大学 卒業
- 2016年 関西医科大学 整形外科教室 入局
- 2016年 関西医科大学附属病院
- 2017年 マックシール異病院
- 2018年 吉田病院
- 2019年 明生病院
- 2020年 関西医科大学くずは病院 整形外科

**体制を強化した  
常勤医5人体制**

**山口** 当院は整形外科領域で樟葉・八幡エリアにおける地域密着型の中核病院として、患者さんを速やかかつ正確に治療し、地域の開業医の先生方へお返ししていくことが使命だと考えております。

整形外科ではこの春に診療強化を図り、現在は常勤医師5名で運営しております。それぞれに専門の部位があり、様々な症状の患者さんに対する役割分担が可能になりましたので、改めてご挨拶させていただきます。

私は肩・膝関節疾患を専門としておりますが、前職ではスポーツ関連の肩の痛みについても専門的な治療にあたっていました。



**澤田** 回復期リハビリテーションを担当しております。整形外科医としては少々珍しいケースかと思いますが、領域の疾患でリハビリを必要とされる患者さんは多いので、専門医が診る意義は大きいと自負しております。

**黒川** 私は骨折等の整形外科疾患はもちろんのこと脊椎疾患や変形性関節症等の慢性疾患にも積極的に取り組んでおります。現在は附属病院等の各専門分野の医師とも連携をとりながら、手術からリハビリまでさらに質の高い治療を提供する体制強化に努めています。

**高山** リウマチ、骨粗しょう症の専門医を目指しています。最近、地域の先生方から連携する先として頼っていただける存在になってきているのかなと実感する機会が増え、嬉しく感じております。

**勝本** 山口医師の下で肩・膝関節を専門的に学ぶため、当院に着任しました。患者さんがいらつしゃれば、ぜひ当院へご紹介いただけますと幸いです。

**黒川** 現在は山口整形外科部長の下、従来から大幅に充実した体制で整形外科を診療しています。特に、整形外科医としての経験豊富な澤田医師が回復期リハビリテーションを担当することは当院の強みです。地域の方々にとっては、初めて来院された時の処置から手術・リハビリまで地元で完結できることになりました。

**「整形外科領域5人体制」  
の強み**

**勝本** マンパワーを強化したことで、地域医療からのご紹介も救急搬送もごく一部の日のをぞき、月のほとんどを整形外科医が24時間体制で受け入れ可能になりました。例えば当日の夕方でも、急を要する患者さんがいらつしゃれば、遠慮なくご紹介ください。



**高山** 病院の規模を考えると、整形外科医が5名所属していることも「くずは病院」整形外科とリハビリに特化した病院という大きな特徴であると考えます。



**山口** 患者さん一人ひとりに向き合えるよう常に余力を持ちつつ、積極的な受入れ体制を整えており、月ごとの手術件数も昨年に比較して倍増しております。

整形外科とリハビリに特化した病院として、今後ますます診療内容を充実させていきたいと考えています。

**地域との連携と、  
今後の展開についで**

**山口** 2018年に関西医科大学くずは病院として生まれ変わって以来、地域の先生方とのより良い関係構築に尽力してまいりました。今後の展開

としては地域医療を担う医師、医療スタッフの方々との交流の機会を増やし、さらに繋がりを強化してゆきたいと考えております。具体的には、地域の先生方にご同席いただき、ご紹介いただいた患者さんのご報告会、症例検討会を設ける準備を進めているところです。

また、近い将来、前職の経験を生かしてリハビリスタッフも含めたスポーツ整形外科の受入れ体制を構築していく予定です。高い専門技術を持つスタッフを集め、いずれはスポーツチームにもトレーナーを派遣できるような診療体制を整えていく構想を練っておりますので、ご期待いただけますと幸いです。今後とも引き続きよろしくお願いたします。



# 生涯にわたる心身の健康管理のために、 より質の高い人間ドック健診を目指します。

人間ドック健診の大きな目的は、がん、脳卒中、心臓病などの命を脅かし、生活の質(QOL)を著しく低下させる病気やその原因となる危険因子を早期に発見し、早期治療に導くことです。病気の早期発見、早期治療は命を守るのみならず、治療による体へのダメージを軽減してQOLを保持し、経済的負担を小さくすることができます。

でないことを確認して安心するため人間ドック健診を受けられる方々も多くおられます。人間ドック健診の結果を踏まえた適切な指導は、根拠のない健康不安を抱えている人々に安心をもたらすし、仕事や家事に向かう活力を与えます。

人間ドック健診の内容は、生命予後を改善するエビデンスが明確になつている検査を中心に構成されていますので、その有用性に関しては疑いがないと確信しています。ただし、質の高い人間ドック健診であることが求められます。人間ドック健診の質を高めるために、正確な診断に最大限の努力を行っています。経験豊富な専門医集団によるダブルチェックや、実際に検査を担当する認定技師によるチェックも加えています。総合健診医学会が行っている、胸部レントゲンや心電図診断を含む精度管理のテストにおいても、良好な

成績を維持しています。年齢や性別などの受診者個々の特性に応じた人間ドックコースの選択やオプション検査の提案を行い、テーラーメイドの人間ドック健診に近づける努力をしています。医療の技術革新が急速に進み、人間ドック健診においても有望な検査が多く出てきており、それらを積極的に取り入れる努力をしています。

当然のことながら、受診者の安全に最大限の配慮をしています。主要な検査の前に必ず医師の診察を行い、検査によって起こりうる危険を回避するため、細心の注意を払っています。事実、人間ドック健診における大きな事故は皆無の状態が長く続いています。時節柄感染症の予防対策にも万全を期しています。また、結果説明に際しては、受診者の健康不安を増幅させるのではなく、安心を与えることに努めています。

人間ドック健診のもう一つの大きな目的は、将来病気を引き起こす可能性のある要因を明らかにし、改善のための助言、指導を行い、病気の芽を摘み、予防することです。いわゆる未病(いまだ病気であらざるもの)を治すことです。現在では、病気を早期に発見することばかりではなく、病気が発症しないように予防することに主眼が置かれるようになりました。

自分が健康である、あるいは病気が



豊富な専門医集団が良質な人間ドック健診を支えます。人間ドック健診の中核となる医師

## ■ 浦上昌也

院長、関西医科大学臨床教授  
総合内科専門医、腎臓専門医、  
人間ドック健診専門医、指導医、  
産業医、健康スポーツ医

## ■ 浅井佐江

放射線科部長  
日本放射線学会診断専門医、  
核医学PET認定医、  
肺がんCT検査認定医、  
健診マンモグラフィ認定医、  
人間ドック健診専門医、産業医

## ■ 中橋佳嗣

内科医長  
内科認定医、消化器病専門医、  
肝臓専門医、  
人間ドック健診専門医、産業医

## ■ 内山正三

超音波室長  
内科認定医、消化器病専門医、  
超音波専門医、指導医

## ■ 松井 芙美

総合内科専門医、消化器病専門医、  
消化器内視鏡専門医

## 新任医師の紹介

### 畑田 憲吾 医師



2020年8月から天満橋総合クリニックに着任させていただきました。本学卒業後は主として心臓病救急の現場に身を置きながら、臨床研究や後輩医師の指導に携わりました。回生会宝塚病院在職中は、診療科の垣根にとらわれずに様々な疾患の診断と治療に従事する機会に恵まれました。初診→入院治療→退院後長期の外來フォローへと、一貫して多くの患者様を診させていただけたことは、自分にとって貴重な財産であると考えております。

多数の心血管病症例を診ながら強く感じたことは、日常臨床における予防医療の重要性でした。疾患の発症予防に軸足を置いた診療を標準化し実践することは、本邦のみならず世界的な潮流となっております。

これまでの臨床経験と学んだ知見をもとに、さらに勉学に励み地域の皆様にお役立ていただけます様、努めてまいりますと考えております。診療の基本を大切にしつつ、変革期を迎えた予防医療のこれからの在り方について、しっかりと学び実践してゆく所存ですので、よろしくお願いたします。

## profile

- 1992年3月 関西医科大学医学部 卒業
- 2000年8月 関西医科大学 第二内科心臓血管病センター 助手
- 2001年11月 関西医科大学大学院 医学研究科 博士課程 終了
- 2002年2月 米国 University of Virginia Health System リサーチフェロー
- 2006年1月 関西医科大学 循環器腎内分泌代謝内科 助手
- 2007年4月 医療法人回生会宝塚病院 内科医長
- 2020年8月 関西医科大学天満橋総合クリニック 内科医長